

口腔再生インプラント学特論 (黒田 真司)

Advanced Course of Regenerative Implant Dentistry (Shinji Kuroda)

キーワード

- ① 口腔インプラント
- ② 欠損補綴
- ③ 骨補填材
- ④ 骨再生
- ⑤ 体性幹細胞

関連する学位授与方針  
DP(ディプロマポリシー)

①,②,③,④,⑤

関連する教育実施方針  
CP(カリキュラムポリシー)

①,②,③,④,⑤,⑥

授業概要

1952年スウェーデン・イエテボリ大学の医師ブローネマルク博士が血液循環の基礎研究中偶然、動物の骨内に埋め込んだチタンが骨結合することを発見したことによって、プロトタイプとして今のインプラント体に進歩して来た。当初は骨結合を成すため、まず骨質、骨量の十分な部位にインプラント体を埋入する外科主導型のプロトコルでしたが、現在は最終補綴装置をゴールとして治療計画を立てる補綴主導型が理想的なものと考えられる。したがって、その理想的な埋入部に骨が不十分である場合、骨補填・骨再生の必要不可欠が問われる。この特論では、骨補填材、骨再生に必要な細胞、足場、シグナルに関して議論する。

授業科目の学修目標

様々な骨補填材、骨再生の原理と方法を理解するための必要な知識を修得すること。

授業計画

- ① インプラント義歯
  - ・固定性補綴装置と可撤性補綴装置 4コマ 山本麻衣子
- ② 骨補填材 4コマ 黒田真司
- ③ 骨再生
  - ・骨伝導 骨誘導 骨形成 4コマ 黒田真司
  - ・仮骨延長 2コマ 黒田真司
  - ・骨髄細胞 4コマ 黒田真司
  - ・遺伝子導入 4コマ 黒田真司
  - ・再生医療 4コマ 黒田真司
  - ・間葉系間質細胞 4コマ 黒田真司

教科書および参考書

よくわかる口腔インプラント学 第4版 医歯薬出版 (教科書)  
骨再生に強くなる本 クインテッセンス出版 (参考書)

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

解剖・組織の基本的知識を確認し、細胞増殖・分化が不可欠な再生医療に関する原著論文や総説論文を熟読し、その内容を理解する能力が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① インプラント義歯とQOLの意義を説明できる。
- ② 骨補填材の種類をカテゴリーとして理解し説明できる。
- ③ 骨再生の種類とそのメカニズムを理解し説明できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
50%	0%	20%	0%	0%	30%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回50%
- ・レポートは、口腔再生インプラント学的な研究の視点の4項目を選択しその課題を提出する。5%×4回=20%
- ・口頭試問は、授業終了後毎回行い知識の理解度を判定する。1%×30回=30%

理想的な達成レベルの目安

理想的な達成レベルは80%以上とする。